

# 佐渡米通信

# こめる

2022年 8月号

発行日:2022年8月

編集人:佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)  
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

## 夏本番に向けた対策

### ～高温障害対策に有効な資材散布推進～

新潟県は6月28日に記録的な早さで梅雨が明け、夏本番を迎えました。今年は猛暑が予想されており、高温障害の可能性が高くなっています。高温障害の対策には、ケイ酸が有効であり、佐渡のフィールド試験でもその有効性を確認しています。施用方法も給水口に流し込むだけで、ほ場全体に行き渡らせることができる資材もあり、真夏の暑い中での作業者の負担を軽減することにも繋がります。早すぎる梅雨明けを受け、高温による水不足や品質の低下を招かないように収穫までしっかり管理をしていきます。

水口にコンテナを置いて



マスへ直接入れる



動画は  
こちらから  
ご覧ください



島内9カ所で開催されたケイ酸資材流し込み実演会の様子

## JA佐渡のお米とサステナブルな循環

JA佐渡では平成18年から「環境にやさしい佐渡米づくり」に取り組んでいます。近年では、各地からの視察や研修会への参加人数が増加しており自然栽培や環境に配慮した取り組みへの関心の高さが伺えます。

今回は、JA全農の方々が有機農業の取り組みの視察に来ました。JA全農は農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」を事業に反映するための情報収集としてJA佐渡の取り組みも参考にしたいとのことでした。自然栽培のほ場の状態を視察し、収量、地力や管理負担についてなど質問が挙がりました。視察の中で、ほ場の雑草が想像以上に少ないことに驚かれており、実際に使用している水田除草機を熱心に観察していました。田んぼは生物多様性保全、ダムとしての役目など多面的な機能を持っています。世界的にSDGsの要求が高まる中、サステナブルな循環を実現するにあたりJA佐渡の取り組みが目まぐるしく注目されています。

JA佐渡のお米は、自然栽培米、無農薬無化学肥料栽培米(有機肥料の使用可)、8割減減栽培、5割減減栽培といった化学農薬や化学肥料の使用量によって分けられています。

JA佐渡のお米を選んで頂くと、消費者の行動はSDGsの13番目の目標である「温室効果ガス排出量の削減」への貢献に繋がります。



自然栽培ほ場視察をするJA全農の方々と説明をするJA佐渡の職員

### 【栽培区分と温室効果ガス排出削減イメージ】

栽培区分	5割減減栽培	8割減減栽培	無無栽培	自然栽培
温室効果ガス排出量の削減				

## 佐渡の米農家さんにインタビュー!!

佐和田地区の菊地正敏さん(50歳)にインタビューをしてきました。菊地さんは5割減減栽培コシヒカリを主に栽培され、その他酒米などと合わせて27町歩を生産されています。菊地さんは専業農家の跡取りとして将来家業を継ぐにあたり、大学では経済学部で経営を学び佐渡にUターンされたそうです。

菊地さんはお米作りを通じて農業が地域へ与える影響を強く感じるようになったと言います。草刈りの仕方一つでも田んぼだけでなくその周辺までも配慮して草刈りを行うようになったそうです。自分の仕事が佐渡の景観の一部となり、他の産業にも繋がっていく、一つ一つの行動が佐渡を作っているそんな想いが伝わってきました。

5年前から地元の小学校の依頼で田植え・収穫体験の食育授業に取り組んでいるそうです。担任の先生や親御さんから「子供たちがお米を大事に食べるようになりました」といった声を頂くようになったと嬉しそうに語られていました。自分のことだけでなく佐渡全体の農業についても考えられている菊地さんは、児童達だけでなく地域にとっても特別な存在であり続けるに違いありません。



佐和田地区



地元の小学生に田植え体験授業をする様子



田植えが終わった田んぼを背景に笑顔の菊地さん

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。

<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO